

大阪人と自転車

大阪に移って、長年にわたり住んできた名古屋と比べて、びっくりすることも多い。そのひとつが自転車だ。写真の『大阪の秘密』にも次のように書かれてある。

日本の大都市の住民のうち、自転車をもっとも活用しているのは、大阪人だろう。大阪では、サラリーマンがスーツ姿で会社まで自転車通勤、という光景は珍しくない。むしろ、オバチャンが近所の商店街にちょっと買い物に行くにも自転車で、というのが普通だ。



大阪人の自転車好きは、「自転車分担率」というデータにも表われている。自転車分担率は、鉄道、バス、クルマ、徒歩など、移動手段のなかに占める自転車の利用率のことで、大阪の自転車分担率は全国1位(2014年)。また、人口当たりの自転車保有台数(2014年)でも、大阪は埼玉県に次ぐ2位の座にある。

大阪人が自転車を好む理由のひとつは、合理主義に徹しているうえ、金銭感覚が発達している。つまりはシブチンだからだろう。大阪人は、たかが移動のためにムダな出費をしたくないのだ。その傾向は、1世帯当たりのガソリン消費量にも、よく表われている。2012年から2014年の平均で、大阪は全国最低。大阪は、鉄道網、バス網が充実していて、自動車保有率が低いうえ、ガソリン代をムダと考える人が多いことが、全国最低という結果につながっているとみられる。そもそも大阪は、上町台地以外は起伏に乏しい土地で、平地が多い。急な坂が少なく、オランダやデンマーク並みに、自転車で移動しやすい土地柄なのだ。

ここで余談をひとつ。そんな大阪人、とくにオバチャンにとって、自転車で欠かせないマストアイテムが「さすべえ」だ。「さすべえ」は、自転車のハンドルに固定する傘スタンド。「さすべえ」を取り付けてさえいれば、雨の日に片手運転せずとも、自転車をこぐことができるのだ。

自宅周辺でも、自転車を利用するオバチャン、お年寄りが多い。スーパー前の歩道は、買い物客の自転車が並んでいる。なかでも淡路商店街は、駅前や通りには自転車がぎっしりだ。私も京都の研究会に阪急電車で行くときなど、ここまで自転車を飛ばし、駅前に「駐輪」させてもらっている。地下鉄から阪急に乗り換えるのと比べて、所要時間と運賃が大きく違うからだ。私も合理主義に徹したシブチンなのだろう。

「大阪人」となった私もそうであるが、自転車は便利で安上がりであり、利用する人も多くなる。自転車屋さんも多い。名古屋は「クルマのまち」だが、大阪は「自転車のまち」だ。一部を除き車が少なく、坂道も少なく、自転車でスイスイと移動できる。雨の日も自転車がスイスイと乗れるよう、「さすべえ」を自転車にさすべえか。

(2018年5月8日)